

ユネスコスクール年次活動報告書

山陰海岸ジオパークエリアにある本校は、「やさしさとたくましさを持ち、共に学び 未来を拓く 岩美西小っ子の育成」を学校教育目標として、志をもってふるさとを愛する子を育てる教育としてESDを捉え、地域の方々と連携しながら教育活動を行っている。ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野の学習を通して、「夢や目標に向かって自ら学ぶ子」「自分も友だちも大切にする子」「健康でたくましい子」「ふるさと岩美が大好きな子」の育成を目標としている。

① 人権に関わる学習

「仲間と共に意欲的に取り組む子どもの育成～『できた』『わかった』を実感し、認め合う活動を通して～」を研究主題とし、主に算数科を通して校内研究に取り組んだ。グループ学習を積極的に取り入れ、友だちの意見を受け入れたり、自分の意見を伝えたりする活動を通して、他者を信頼し尊重し合う仲間づくりに取り組んだ。また「西小ほめどころ宣言」を掲げ、子どもの意見や行動を具体的にほめることで、子どもの意見を承認して価値づけ、子どもが前向きに意欲的に学習できる環境づくりに取り組んだ。



5・6年生は、ユニセフ・キャラバン・キャンペーンに参加し、日本ユニセフ協会の方の話を聞いた。世界では紛争や貧困、気候変動により子どもたちの権利が脅かされていることや、世界で起きている課題は、私たちの生活ともつながっていることについて学んだ。子どもの権利が守られ、平和で「持続可能で住みやすい世界」の実現にむけ自分たちに何ができるのか考える学習を行った。



人権について考える学習に取り組んだ。

1. 人権標語の紹介(岩美町人権教育推進協議会主催)
2. 人権作文特選と入選の作品の紹介
(人権標語と作文に全校児童と保護者が取り組んだ。その作品の紹介)
3. 人権参観日では、すべての学年で情報モラルについての学習に取り組み、情報化社会で人権を守ることについて考えた。

② 環境教育や山陰海岸ジオパークに関する学習

4年児童は、山陰海岸ジオパーク拠点施設である鳥取県立海と大地の自然館学芸員にゲストティーチャーとして来ていただき、磯の観察を行い、大谷海岸の磯に生息する生き物についての学習を行った。また大谷海岸の清掃活動を行い、海の環境等の課題についても考えた。岩美の海の魅力や課題を発信することが、岩美の海を守ることにつながると考え、岩美の海の魅力を

発信する劇づくりに取り組んだ。2年児童は、校外学習で同拠点施設の兵庫県香美町立海の文化館を訪れ、山陰海岸ジオパークの地形やそれを活かした暮らし、日本海に生息する魚について学習した。6年児童は、同拠点施設岩美町立渚交流館の指導員の支援でシーカヤックに乗って山陰海岸の清掃活動を行った。また、全校児童で地元大谷海岸へ行き「海の学校」を実施した。地元ライフセーバーによる海の学習での命を守る安全指導や海水浴を行うことを通して、改めて山陰海岸の地質学的価値の素晴らしさや美しさを実感した。



「海を通した ESD」といえる海洋教育を通して、SDGs の様々なターゲットに考えを派生させ、世界規模の問題を自分の生活と結びつけて考える姿勢につながっている。児童の意識の変容としては、「視野を広げて自分の取るべき行動について考え直したり、具体的に考えたりする姿」、「周囲との協働の必要性を感じる姿」が見られた。

③ 食育に関する学習

下学年では、地域学校協働本部の支援で、山陰海岸ジオパークならではの地形である砂丘地を活用したさつまいも栽培やらっきょう栽培を行った。植物に直接触れ世話をしたり、調理実習を行ったりすることを通して、砂丘地での植物の成長に興味関心をもち、食に対する感謝の気持ちを持つことができた。また地域の方との交流の場である「西小カフェ」で、らっきょうの学習を地域の方へ発表したり、採れたさつまいもを地域の方と食べたりして、地域の方への感謝の心や地域おこしへの思いが生まれるきっかけとなった。

4年児童は、総合的な学習の一環で、山陰特産の「板わかめ」づくりを本校区網代で体験した。地元のボランティア団体わかめ部や網代女性部の方々に指導していただきながら、オリジナルの板わかめを完成させた。しかし実際に板わかめを食べたことがある児童は多くはなく、食文化を次の世代に伝えていくことの難しさを感じた。水質の変化や温暖化によりムラサキウニの大量発生によるわかめの食害もある。地域の大かな食文化や自然を残すために、地域の方々と連携しながらこの取り組みを今後も続けていきたい。

6年児童は地元の漁協女性部の方と魚食文化継承の取り組みとして、地元産赤ガレイを使った魚ハンバーグ作りを行い、海から受ける山陰海岸ジオパークの恩恵や地域の方への感謝の心を育むきっかけとなった。

また、地域の公民館や大谷生産組合の方々の協力で、全校児童と地域の方と一緒に地元生産米を使用したもちつきを行った。食への体験が広がるとともに、地域の方の温かさに触れ、さらに親しくなる機会となり、地域の一員としての自覚が高まるよい機会となった。



④ 言語に関する学習

英語に親しむ環境づくりとして、本校在籍の2名のALTがイングリッシュボードを作成している。オリジナリティーがあふれる内容になっており、さらにアメリカやイギリスの文化を知ってもらうことも大切な要素として含まれている。例えば、11月のテーマは感謝祭とし、アメリカやカナダのサンクスギビングは収穫の感謝祭であり、日本は勤労に感謝という内容で文化の違いがあるということをメッセージや写真から学ぶことができた。また、ガイ・フォーント・ナイトというイギリスの行事の掲示もし、あまり馴染みのない外国の行事について知る機会にもなった。

さらに、インターナショナルクラブでは、2人のALTと一緒に活動を行っている。読み聞かせや絵本の紹介を通して、様々な国の言語に触れたり、世界には他にも、もっとたくさんの言語があるということを知ったりするよい機会となった。よく知っている「カラスのパン屋」を、英語で読み聞かせを行った。児童からは「英語以外の言語に触れることができた。」「blackは黒と知っているので、言葉が違ってもわかるところがあった。」などの感想があった。言語にもいろいろな違いがあることを知り、お互いの違いを認め合うことの大切さについて考えるよい機会となった。